

もくじ CONTENTS

FEATURE

縁あって、同じまち。

- 2 さて、昼食会のご案内です。 ボランティアグループ「泉」
- 4 縁あって、同じまち。 駒っ子の会
- 6 このまちの「はじまり」ばなし 矢橋東町内会
- 8 ご近所まんが くさつがわ家とお隣さん ~これって、みんなの問題~
- 9 より道こ道 異国の王子と穴村のもんもん
- 10 事業団からのお知らせ/まち語り 一枚の写真
- 11 見つけてスッキリ!/ボイス
- 12 熊谷栄三郎の徒然草津 第35回 よいしょ

よく混同してしましますが正月の三が日に行く挨拶を「お年始」、そのときの贈り物を「お年賀」といいます。年賀状は元々、挨拶に行けないときに送る書簡だったとか。なかなか会えない人の顔を思い浮かべながら書く年賀状。年末のあわただしくも幸せな時間です。

心しずか

姿勢を正し、呼吸を整え、心静かに筆を運ぶ。「書は人なり」。気がつけばカレンダーも最後の一枚、今年も残り少なくなりました。何かと気ぜわしい師走。こんな時節だからこそ、心静かになるあなたの時間も大切に。



イキイキ活動賞 2019

あなたが住んでいるのは、どんなまちですか。まちはその歴史や成り立ち、そこに暮らす人たちの生活スタイルだって様々。でも縁あって同じまちに住む人同士、どうせなら入居の時期に関わらず、程よいつながりの中で楽しく暮らしたいもの。「いざ」というときには助け合う仲間でもあります。このまちで、そんな人のつながりをつくろうとする人たちがいます。ようこそ、このまちへ。



さて、 昼食会の「案内」です。

ボランティアグループ「泉」ふれあい昼食会

藤田清子さん
垣根和子さん

「食事は何を食へるかより、誰と食へるか。」よく耳にするフレーズですが、元々は古代ギリシアの哲学者の言葉だそうです。古代ギリシアでの事情はどうかわかりませんが、高齢社会となった日本では一人ぼっちの食事「孤食」を余儀なくされる人もいます。ひとり暮らしや昼食は家に一人である高齢者に手作りのお昼ごはんを振る舞う昼食会が若草にあります。

大きな開発

志津南地区にある若草は緑豊かな街並みが静かに広がる住宅街。昭和58年から分譲が始まり、今では約900世帯が暮らす大きなまちです。分譲当初はプールやゴルフ練習場もあって、若い家族で賑わっていたとか。

それから約40年。プールではしゃいだ子どもは巣立ち、ゴルフを練習していたお父さんも定年を迎えました。高齢化が進むまち。連れ合いを亡くしひとり暮らしとなった人、家族が仕事に出来る人が減る。高齢者が増えてきました。そんな高齢者に月に一回の昼食会を提供するのが地元の

主婦によるボランティアグループ「泉」です。

心を配る

方まで心配りが盛りだくさん。参加する高齢者が身づくろいして来るほど楽しみにしているのも納得です。

あうんの呼吸

対象となる高齢者には毎月、案内状が届きます。この案内状、単に日時を知らせるだけでなく、季節の移り変わりや世間の話題を織り交ぜた短い手紙と「可愛い挿絵が添えられ、なんとも心温まります。」これをメンバーが一人ひとり訪問して手渡します。「この案内が届くのが楽しみ」という参加者も多くて、中にはこれまでの案内状をすべて残している人もいます。

「うちの皿が美味しそうに見える?」「手の空いた人からコーヒー飲んでや〜、和気あいあいとメンバー自身が楽しんでいる様子が印象的です。」この昼食会、かれこれ約30年、回数にして250回以上も続く

昼食会に出すのは手作りの松花堂弁当。仕切られた弁当箱の中には栄養バランスや彩り、旬の味覚や季節感だけでなく、高齢者でも食べやすいよう細かく、柔らかいものを、と食材や調理の仕





大きなサツマイモが採れました

街頭樹も出始め、十月二十日は天皇陛下の即位礼正殿の儀が執り行われ即位の歳をみやびやかな高脚座から内外に向け、宣言された歴史的な一日でした。皆さんでテレビで拝見されたのではないうでしょうか。平成・令和と列島を襲った自然災害に心を痛められ国民に寄り添う気持ち。世界の平和を願われたお言葉を改めて示されました。穏やかな月日が続きませうに願っています。では昼食へのご案内です。スタッフ一同、参加をお待ちしています。

ふれあい昼食会のご案内

令和元年十一月一日
ボランティアグループ泉

「泉」
日 時 十一月一日 土曜日 まじりのセンター
会 費 三百円
問い合わせ先 藤田清子 090-9800-1111
垣根和子 090-9800-1111

★当日欠席される方はお電話をいただきますようお願いいたします



活動となりました。なるほど、この積み重ねが「あーうんの呼吸」を生み出しているんですね。

ボラでつながる

全国から二斉に人が移り住んできた若草。当然、知らない人ばかりです。昭和62年、友だちづくりのような感覚で4代の女性4〜5人が集まりました。「知らない住民同士がつながれる何かを始めよう」。今の時代なら、カルチャースクールやスポーツなどに目が向きそうなものですが、彼女たちが始めたのはボランティアでした。

「若草の各戸に当時、設置されていたケーブルテレビで呼びかける約20人に増えました。当時はまだ専業主婦が多く、家事以外にも何かしたいと思っっている主婦が集まりました。近くに障がい者施設や高齢者施設があつて、イベントの手伝いや手芸などの縫物、茶話会、障がいをもつ子どものプール介助、高齢者や障がい者のための自助具づくりなど、色々な活動をしました」と垣根さん。「泉」が施設から求められる様々なボランティア活動の受け皿となり、それぞれ独立したグループになっていきました。

呼び戻した記憶

「泉」が設立当初から大切に続けている活動がもう一つ。「高齢者ふれあいバスツアー」です。観音の里（長浜市）に行ったこの春のこと。東北から若草に移り住んだ90歳近くの方が、若いころに読んだ井上靖の小説「星と祭」の舞台となった地を訪れることができたことに感動し、すでに絶版となっているこの小説を図書館から取り寄せて、読み直しているとか。「若いころの記憶と気力を呼び戻してくれたのが嬉しくて」と垣根さん。



藤田清子さん



垣根和子さん



「無理なく楽しく笑顔で」とコツコツ続けてきた活動。縁あつて同じまちに住むことになった同じ年代の主婦たちの「ママ友」ならぬ「ボラ友」つながりも気がつけば30年近くになりました。メンバーはそれぞれ忙しく、「泉」の活動の時だけ集まる程よい距離感も長続きするコツだとか。「今の若い女性たちも仕事、家庭、趣味と色々忙しいだろうけれど、自分のまちに少し目を向けてみたら、この先もっと楽しい人生になると思います」とお二人。さて、昼食会のご案内です。

ひとまちキラリ

イキイキ活動賞 2019

縁あって、同じまち。

とある土曜日。夕暮れ時のまちの一角に、次々と人がやってきました。赤ちゃんを抱っこした若い夫婦や子ども連れの家族、中には手押し車のおばあちゃんもいます。お目当ては新鮮で安い地元の野菜。ここは駒井沢町。そして今日は「駒っ子の会」が開く野菜市の日です。

三世代同居の町

「駒っ子の会」の話に入る前に、駒井沢町の成り立ちについて少し。

笠縫東小学校の北に位置する駒井沢町は、まちなかを中ノ井川と駒井川が流れる、水が豊かな歴史ある町です。町内には病院が3つあるほか、近年は幹線道路沿いに大型スーパーや洋服店、喫茶店、書店など生活に身近な店も増え、賑わいをみせています。

「元々は農家中心の約50世帯からなる町でしたが、約40〜45年前に150世帯ほどの住宅ができました。更に10年程前にも新たな宅地開発で約100世帯の子育て世代が移り住んできました。今では約330世帯、100人以上の子どもが暮らす町になりました。元々、そこに暮らす住民さんに2度の宅地開発。まるで三世代が同居するよな町です」と西川さん。

駒っ子の会

西川忠博さん(76歳)
富山正晴さん(71歳)

40年目のはじめまして

「駒っ子の会」の誕生は平成18年。40年前の開発で住民となった人たちが、ぼつぼつと定年を迎えだしたころでした。きっかけは子どもたちの登下校を見守るスクールガードの活動です。全国的に子どもが巻きこまれる事件事故が多くなり、小学校から要望を受けての始まりでした。

実は西川さんと富山さんは40年前の同居組。「おくと声をかければ聞こえるぐらい」というご近所さんですが、定年を迎えるまで互いに知らなかったとか。

ご近所の顔さえおぼろげだった住民同士でしたが、西川さんたちの声かけで退職世代が一人また一人と集まり、スクールガードを通じて互いを知るようになりました。今でも約40人ものメンバーの組み合わせを毎回変えるのは、子どもの安全を守ることに加え、住民同士の交流も育みたいから。



西川忠博さん





目指すのは

スクールガードをきっかけに、駒っ子の活動はどんどん広がりました。百歳体操、グラウンドゴルフ、野菜市…と、住民の関心にあわせて取り組み、40年前の入居組ばかりでなく、その前からお住まいの住民さんとの交流も生まれてきました。

子どもの安全、健康づくり、地産地消と活動自体は多岐にわたりますが、共通する目的はただ一つ。そう、住民同士がつながり、駒井沢町のコミュニティの輪を広げることです。

教える人・作る人・食べる人

「ん!?それなら町内会活動ではないのでは?」「町内会では難しいことがあります。役員が一年毎に交代したり、若い人は仕事に忙しかったり。時間に余裕のできた人が、できることからゆつくりと始める。無理は続かない。いつか時間ができ、気持ちに向いたときに、関わってもらえる場になってほしい」と富山さん。

野菜市に話を戻しましょう。駒井沢では地元の農家さんも高齢化や跡継ぎがないことなどから、離農される人が出てきたとか。そこで西川さんたち40年前の入居組の人たちが空いた農地を借り受け、野菜づくりを始めたのです。

「始めはしたけど、ズブの素人ばかり。農家さんは畑を貸してくれるだけでなく、コツを教えてくれたり、藁やもみながらも分けてくれます。うれしいですね。おかげでおいしい野菜ができるので、最近引越してきた若い人たちにも食べてもらおうと野菜市を始めたんです。地元の農家さんに場所と技術・知識を提供してもらい、40年前の入居組が野菜をつくる。それを新

しい住民さんに食べてもらう。地産地消とまちの世代交流になつていけたら嬉しいですね」と西川さん。

その言葉どおり、市が開かれるのは新しい宅地街の一角。もちろん、ここでも目指しているのはつながりづくり。休憩コーナーを設けたり、音楽を流したりと工夫もあって、「これ、どうやって料理するんですか」「いつ、駒井沢にきたの」と、自然に会話が生まれていました。

どうやら野菜市で手に入るのは、野菜だけではなさそうです。

駒っ子の会のこれからを聞きました。「今ね、会の女性陣からマージャンを覚えたい、って声があるんです。マージャンなら教えることができる男性も多いしね。健康マージャンの活動が始まりそうです。そうそう、子どもたちが増えてきたので、地蔵盆を復活しようと話を進めています。子どもころのふるさとの思い出が増えてくれたらな、と思うんですよ」

昔ながらの地域に2度の開発があったまち。高齢農家と若い世代層をつなぐのは、その中間にたつ住民たち。ムリなくできることを楽しむ。子どもを真ん中に笑顔と会話が広がるしくみが駒井沢町にありました。



富山正晴さん



写真：大條紘史(編集ボランティア)



イメージ▶

FEATURE

このまちの「はじまり」ばなし

矢橋東町内会 会長 中津元伸さん(44歳)

会社、学校、スポーツチームだつて、どんな組織にも「はじまり」があります。それは町内会・自治会も同じこと。4年前に設立された矢橋東町内会の「はじまり」について、44歳の町内会長、中津元伸さんに聞きました。

近所の方が、公園は小学生の親御さんたちが掃除してくれていました。それが、ごくごく普通の日常でした。

そんな「日常」のなかで気がかりもありました。それは町を照らす防犯灯。分譲後5年間は住宅会社が維持管理や電気代の負担をしてくれることになっていたので、約5年の5年が近づいていたのです。子どもの多いまち。防犯や安全は特に気になります。また、ごみの集積所や公園の掃除だつて、親御さんだけに任せっきりでは続かないのでは。普通だつた日常が当たり前でなくなつてきました。

町内会をつくらう

町内会をつくらう。町内会があれば、市から防犯灯設置の補助を受ける制度があることを知り、ご近所さんで町内会を立ち上げる準備を始めました。住

民アンケート・市役所の各課まわり・規約づくり。町会費の設定…。何度も市に相談しながら慣れない作業の連続です。町内会の設立に向けて約15人の住民が週一回集まる時期が3か月続きました。そしていよいよ町内会設立総会。「賛成」「反対」「よくわからない」など様々な意見が出たものの、丁寧に説明することで、なんとか住民ほとんどの賛成を得ることができました。

矢橋東町内会の誕生です。

普段の先にある「いざ」

「生まれたての町内会。今できるのは回収板などの連絡・年2回の公園掃除と防災訓練の活動くらいです。ほとんどが子育て世代。まだ皆さんは仕事・子育て・塾送迎など町内会に関わる余裕も時間もないし、あれこれと活動を広げる必要もないと思つています」

中津さんは続けます。

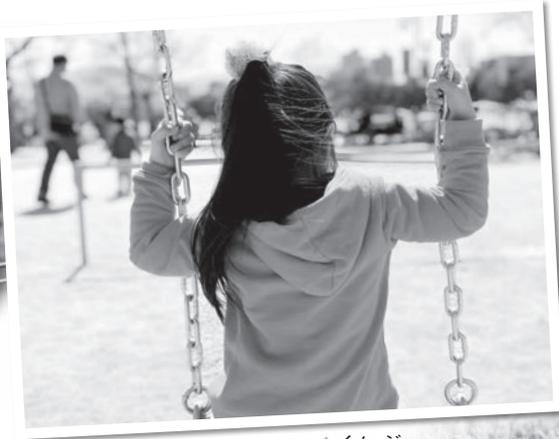
「ただ最近の災害ニュースを見てみると、とてもこのまちの住民だけでは守りきれない、助けることもできないと感じます。子育て中のママたちの中には、もし夫のいない昼間に災害が起きたらどうしたらいいのか、と不安に思っている人も少なくありません」

こうして町内会として地元の老上西学区まちづくり協議会にも入りました。

「設立4年の町内会は防災備品も十分ではありません。孤立した町内会だと頼れるのは行政だけになってしまいます。せめて学区内の町内会とつながりを持たなければと思いました。歴史ある町内会は防災備品が整っていますが、高齢化していれば人力に不安があります。逆に私たちは、モノはないけれど働く世代の動ける人が大勢います。普段から他の町内と顔見知りになる関係づくりをしていけば、

普通の日常が

矢橋東町は8年前に宅地分譲され、約80世帯が入居しました。その多くは子育て世代です。中津さんも「駅や病院が近く、買い物にも便利、新しい小学校ができるのも魅力」というのが入居の決め手だつたとか。当時、町内会はなく、ごみ集積所は



▲イメージ

役割を分担するために

矢橋東町内会
老上西学区まちづくり協議会



中津元伸さん

「いざ」といふときの助け合いができるのではないか、と思います」

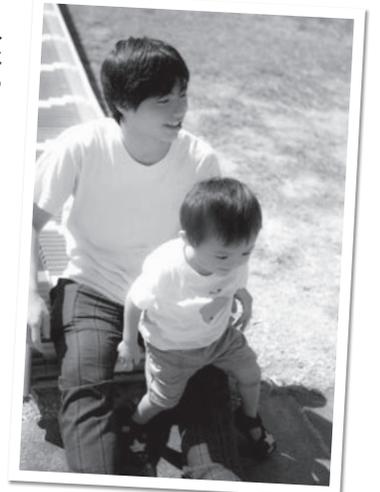
でも、まち協に入ってみると難しさも感じるとか。「地域運営に関わってみると、慣例をのり越える難しさも知りました。慣例を重視しすぎると今の時代に合った地域運営は難しくなります。伝統と慣例は違う。伝統を大切にしながら慣例を柔軟に変えていくには、若い人が地域に関わりやすい環境づくりが必要です。そのためにも私たち若手ががんばらないといけないと思っています」

半日 365日

「普段から顔の見える関係をつくるのが大切。『若い人は忙しい』と言いましたが、それでも工夫すれば少しの時間はつくれ

るはず。365日のうち半日でも地域に目を向け、手を貸しても変わりません。まつりや運動会のテント張りや撤収だけでもいい。顔の見える関係をつくる、その延長線上に地域を支えていく人たちの世代交代が上手に進むんじゃないか、とも思っています」

力強い言葉には中津さんなりの裏付けがあるようです。「最近、やっと地元のおじいちゃん・おばあちゃんとも冗談を言い合える仲になりました。柿やミカンをもらったり、釣ってきた魚をお返ししたり。野菜を作ってみたいと相談したら畑を貸してくれました。地元での交友関係の年齢幅が広がってきましてよ」中津さんは有言実行の人ようです。



イメージ▶

中津さんに、まちの「これから」について聞きました。

「地域は「子育て」と「高齢者」には手厚いのですが、働く世代のお父さんたちが面白いと思う事業が少ないし、親が共働きで留守番している子どもの居場所など、抜け落ちている住民層もあるように思います。地域も時代に即した運営が必要です。このまちが20年、30年経ち、子どもたちがどれだけこのまちに戻ってくるのか、また老後の私たちが暮らしやすくなっているか。矢橋東町内会も動き出したばかり。先輩町内会に引っ張ってもらいながら、追いかけていきたいですね」

里芋友の会 ～老上西学区まちづくり協議会～

古い歴史文化と豊かな緑に包まれた老上西学区。近年は宅地の開発だけでなく、高齢化に伴う休耕田も目立ち始めるなど、まちの表情を変えつつあります。

老上西学区まちづくり協議会は、緑を残し、住民同士のふれあいの場として、休耕田を借り受け、地域の人に里芋をつくってもらう「里芋友の会」を展開しています。「田んぼの土でよく育ち、あまり手間もかからなくて美味しい里芋をまちの名産にしよう」とのユニークな発想です。

参加者は会員として参加費(5株500円)を負担して収穫を楽しみます。畑は初めてという家族にも評判で、7月の畑レストラン・12月の芋煮会といった交流イベン



トも、人気を支える工夫。まち協として栽培したものは、学区のふれあい音楽まつりでも販売されるので、一度ご賞味あれ。

くさつがわ家とお隣さん ～これって、みんなの問題～

かれこれ40年の「ふれあいタウン」。
どこにでもあるようなこの町で、今日も繰り広げられる
今ドキご近所のちょっとこなれた毎日。
楽しくも少し考えてしまう。
もしかして…これって、みんなの問題かも。



テキパキ

若い人たち、なんとも頼もしいかぎりです。「住民が高齢化して、まちの行事が続けられなくなった」という声も耳にします。まつりや運動会、もちつき、地域の掃除…、まちの行事って意外と力仕事や体力が必要、高齢になるとキツイものもあります。縁あって同じところに住む者同士のせっかくの交流行事を続けたくても続けられない。なんとも悩ましいものです。

そこで少し見方を変えてみるのも良いかも知れません。たとえば高齢化率(人口に占める65歳以上の割合)が60%のまちなら、残る4割は65歳未満の人となります。もし、まちの行事に若い住民の参加が少ないのであれば、何かしらの「参加しない理由」があるはず。単純に「無関心」や「時間がない」だけで片づけてしまってはもったいない。人によっては「時間帯や曜日が合わない」「知り合いがいない」「拘束時間が長い」「性格が人見知り」「不得意や苦手」「そもそも知らない、声がかかっていない」など前向きだけど結果的に参加できない理由もあります。ここに工夫のしようがありそうです。

たとえば役員さんが苦勞している仕事や作業をすべて洗い出し、細かく役割をつくるのはどうでしょう。いわゆる棚卸しです。運動会なら、「準備や後片付けの手伝い」「カメラ・ビデオ係」「放送係」など部分的な役割なら手伝ってくれる人がいるかもしれません。好きな人や得意な人もいるでしょう。これをきっかけに、まちのことに関心をもってもらえたらラッキーというものです。

大切にしてきた行事や催しも、一度止めてしまえば再開するのはそれ以上に大変。むしろ今の行事のやり方を見直すチャンスと前向きに捉えてみるのも良いかも知れません。

これってやっぱり、みんなの問題。



さく・com-com / え・まんじゅう

読売新聞

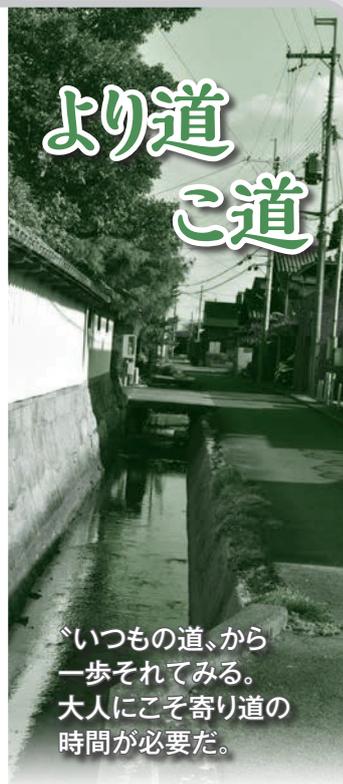
今こそ新聞を読む

読売センター草津西 / 有限会社 雄
〒525-0029 滋賀県草津市下笠町 1306-2 TEL:077-568-1165 FAX:077-568-3205
ホームページは、読売センター草津西で検索! または、今すぐ右のQRコードにアクセス!

SUMAI

スマイ印刷は、
自然環境を守る地球に優しい
製品づくり「エコ印刷」に
取り組んでいます。

株式会社スマイ印刷 sumaiprint.com
本社:520-3014 滋賀県栗東市川辺568-2 p:077-552-1045 f:077-552-0890
東京オフィス:103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階 p:03-5201-3525
甲賀水口ファクトリーPF1:528-0068 滋賀県甲賀市水口町ひのきが丘36-6 p:0748-63-1045



より道 こ道

「いつもの道、から
一歩それてみる。
大人にこそ寄り道の
時間が必要だ。」

第19回・異国の王子と穴村のもんもん

石田はま子

約2000〜2500m四方の
広さに、いにしへの技術伝来や
大正昭和の賑わいなど悠久の歴
史がギュッと詰まったまち。今日
は常盤学区・穴村町を訪れます。
栗東志那中線「穴村町」の信
号から西に望む杜を目指しま
す。訪れるのは安羅神社。堂々と
した風格ある石の鳥居に目を奪

われます。鳥居にかかる『安羅
神社』の額東は暈1暈分もある
とか。ここに祀られているのは*
新羅の王子・天日鉦命です。日本
書記では「命は穴村に暫し留ま
り、従者が鍼灸を伝えた」とさ
れ、患部を温めて治療する石
「温石」がこの社宝となってい
ます。異国の王子がやってきて
当時の技術をこの地に伝えたと思
うと歴史の浪漫を感じます。

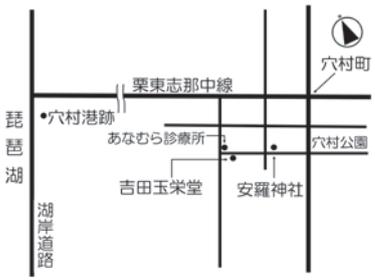
鳥居前の道を西に少し歩くと、
白壁と水路が目を引く広い敷地。
ここは、あなむら診療所。新羅の
王子からずっと時代が下った大正
から昭和中期、「穴村のもんもん」と
してここに多くの人が訪れました。
子どもも夜泣きによく効くと評判
だった墨灸「もんもん」を目当てに、
大津港

から穴村行き
の汽船が就航し、志那中の港には年間約9万人
の人が利用したという記録もあ
ります。立派な門の向こうに今
も残る松の大樹の下で、港から
馬車や人力車、貸乳母車できた
親子が順番を待ち、門前の道に
は下駄屋さん・饅頭屋さんなど
多くの店が並んでいました。

往時の賑わいを今に伝えてく
れるのが、診療所前にある吉田
玉栄堂の串だんご。今も「あな
むらのお灸に行ったらあなむら
名物のくしだんごをどうぞ」と
可愛い子どもが描かれた包装紙
が使われています。竹を十串の
扇型に広げ、小さな団子が一串に
五個ずつ。素朴な醤油味がなん
とも美味しい。

約2km先の穴村港跡
まで足を延ばしてみま
した。券売所跡には白
い枯松。ちよつとわびし
いけれど、土手のコスモ
スと対岸の比叡山の雄
姿に癒されます。「穴村
のもんもん」に来た親子
も、この比叡山を眺めた
ことでしょう。

*新羅
古代の朝鮮半島にあった国家



ひとりで悩まないで！まずはお電話を！
くらしサポートセンターしが草津がお手伝いします

くらしサポートセンターしが草津
くらし何でも相談
TEL:077-564-5512
住所：草津市大路1丁目1-1 TEL:932 4F 4 0 6

センターへの相談は無料です。

- くらしサポートセンターしが TEL: 077-522-4600
- くらしサポートセンターしが大津 TEL: 077-572-7720
- くらしサポートセンターしが彦根 TEL: 0749-27-3500
- くらしサポートセンターしが近江八幡 TEL: 0748-37-5522

55 株式会社 三井田商事

経営理念 迅速・確実・親切

弊社は2019年度からSDGsへの取組をスタートさせ、それを基盤
にして社会貢献を通じて地域から愛される企業に成長していきます。
清掃活動等で弊社社員は地域の皆様に大きな声で挨拶をします。
また、弊社は55周年を迎え、改めて今後も永続的に地域の皆様と
共に成長していきたいと考えております。

滋賀営業所 / 〒525-0050 滋賀県草津市南草津2丁目7-16
TEL:077-598-1611 FAX:077-598-1651

まちづくりセンター 17周年イベント

無料

～笑顔でつむぐ草津の未来～

市立まちづくりセンター登録のボランティア
団体が子どもから大人まで楽しめる体験・
ステージ・作品展示などを行います。
あなたに合った市民活動がきっと見つかる。

3月7日(土) 10:00~15:00

市立まちづくりセンター
(西大路町9-6)

問合せ ☎ 562-9240 ☎ 562-9340

令和元年度

ひとまちキラリ イキイキ活動賞



授賞団体決定

長年コツコツと継続されているまちづくり活動に“ありがとう”の気持ち
を伝える賞。今年は次の3団体が受賞されました。

- **駒っ子の会** (笠縫東学区 駒井沢)
従来からの住宅地と新興住宅地のコミュニケーションを図るため見守り活動や野菜市など様々な活動を展開。
- **ボランティアグループ「泉」** (志津南学区 若草)
ひとり暮らしや日中独居の高齢者を対象に食事会やバスツアーなど、目配りと心配りが行き届いた活動を展開。
- **環境ボランティア 草津湖岸コハクチョウを愛する会**
厳しい寒さの琵琶湖岸で約20年もの長きにわたり水鳥の観察を実施。コハクチョウの個体識別・水鳥飛来の実数把握調査・湖岸清掃を行う。

受賞者には次の市内企業・事業所様からのご寄付による副賞(5万円)が贈られました。

(株)サンアメニティ / (株)三井田商事 / 読売センター草津西
草津・栗東金融協議会 / (株)スマイ印刷 / 滋賀トヨタ自動車(株)瀬田草津店

- **問合せ** ● (公財)草津市コミュニティ事業団 まちづくり振興課
草津市西大路町9-6 ☎ 565-0477
HP まちサポ <http://kusatsu-spp.net>

前回の答え たくさんのご応募ありがとうございました。



※ご応募いただいた内容は、プレゼントの発送および今後の誌面づくりに活用し、それ以外の目的で個人情報を使用することはありません。

まち語り 一枚の写真



まちのあらゆる場面で培われてきたコミュニティの形。
その一瞬を捉えた一枚の写真から“これから”のコミュニティを見つめます。

草津ではかつて年に2回、8月11日と12月26日に「草津大市」と呼ばれた市が立ちました。写真は明治42年ごろの歳末の草津大市を写したもので、立木神社側から撮影された本町六丁目(今の草津三丁目)です。

この頃の大市は、本町一丁目～六丁目(今の草津一丁目から三丁目)まで、常設の店に加えて露店が並ぶ大規模なものでした。売られていたのは盆・正月用品から、陶器、農具、おもちゃなど様々で、明治44年(1911)12月の新聞には「市日の混雑、雑鬧は大変なものだが、此の一日に正月用のもの全部買って帰る習慣になってゐる」とあります。栗太郡全域から多くの人が集まり、大正時代から昭和10年代を最盛期に、その後は規模を縮小しながらも戦後まで続きました。

実は、江戸時代に東海道の各宿場の情報をまとめた「東海道宿村大概帳」(天保年間刊)草津宿の項にはすでに、「宿内市立 毎年七月十一日・十二月廿五日両度これ有り」という記述があります。江戸時代以来、多くの商店は、代金後払いで盆・暮れにまとめて精算する掛売り方式をとっていました。大市はその時期に合わせて行われてきた一大イベントだったのです。

草津宿本陣周辺では平成29年から、この大市になぞらえた「草津小市」が毎年12月に開催されています(草津まちづくり株式会社主催)。マルシェやアートを楽しみながら、かつてのにぎわいを想像してみるのも面白いかもしれません。

文・草津宿街道交流館

草津大市の にぎわい



おわび

前号(122号)に誤りがありました。「渋川の花踊り」の起源とされているのは、応仁3年(1469)です。おわびして訂正します。

見つけ ズバリ!



お正月に欠かせない餅。家族やご近所で集まって餅つきをする風景は今や貴重かもしれませんね。大根おろし、きな粉、砂糖じょうゆをつけて食べるつきたての餅は格別。あらたまった気分でいただくお雑煮も、それぞれの家庭の味があっっておもしろいですね。

下のイラストには上のイラストとちがう部分が5か所あります。ちがう部分を答えてね。



イラスト：大村恵(編集ボランティア)

応募方法

ハガキに①答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号

③今号の感想を添えて下記まで。

FAX、メールでのご応募もお待ちしています。

※切 1月6日(月)必着

宛先 〒525-0037 草津市西大路町9番6号

(公財)草津市コミュニティ事業団

「コミュニティくさつ12月号」係

✉ com-com@mx.biwa.ne.jp

☎ 562-9340

プレゼント

応募いただいた中からniwa+(ニワタス)の「ブーランジュリーシス」「叶匠壽庵」「カフェトリ」「ミソラテラスイタリー」「ア.デベシュ」のいずれかで利用できる優待券(1000円相当)を5名様にプレゼント



▲ブーランジュリーシス



▲叶匠壽庵



▼ア.デベシュ

▼カフェトリ



▲ミソラテラスイタリー



ポイント

施設を利用するみんなの声と笑顔をお届けします。

来年こそは

クレアホール



アミカホール



ロクハ荘



ロクハ公園



まちセン

熊谷栄三郎の 徒然草津 つれづれくさつ

第35回

よいしよ

熊谷栄三郎



日本人ならだれだって、歳をとればとるほど、よく使うようになる言葉が二つあることに最近気がついた。

「よいしよ」という言葉。これ、若いときは、重い物を持つような場合しか使わないのに、高齢になると、しよちゅう使う。

私なんぞ近頃は毎朝、バジヤマの左足を脱ぐとき、次いで右足を脱ぐとき、よいしよと言っている。その後スポンをはくときも、左足、右足と一回ずつ言う。

いすから立ち上がるときだけでなく、座るときも使う。私だけではない。この前、市内のスパーマーケットのベンチに座っていたら、白髪の男性が、よいしよと大声を出して隣にどしん。「七十七歳。何かにつけ、よいしよ、よいしよ言うてます」とおっしゃり、会話がはずんだ。

きわめてありふれた形のものを。指で軽く押せば袋がつぶれて、ころりと薬が出てくる。それを私は、よいしよとつぶやきつつ取り出しているのに気がついた。三錠を出すのに計三回。

で、ちよつと気になることがあった。薬のあの包装紙はなんとこのか。専門用語があるのか。すぐく知りたくなった。つまらぬことにこだわるのも高齢者の特徴らしい。

知人は、なぜそんなことに興味があるのかさえ分かってくれない。そこで私は、町の薬局を尋ね回った。十軒ほど回った。答えてもらえたのは三軒。分かった。「ヒート」とか「PTP包装シート」とかいうのだ。

教えてもらった店でお礼を言って、出ようとしたら、店員さんに「お大事に」と言われた。あ、これは歳をとるほど人から言われるようになる言葉ではないか。

さあ、ペンを置こう。よいしよ、と。

読者の声

たくさんのご意見ありがとうございます。

9/15号「私と家族のカレンダー」に寄せられた感想から

- ガーデニングサークルグラッシーの特集がおもしろかった。南草津駅・de愛ひろば・ニワタスなどの花壇がいつもきれいだと思って通っていました。この特集をきっかけにメンバーの方たちに話しかけてみようかな。
- 歩こう会には前から興味があったので活動内容がよくわかり参考になりました。スタッフのご苦労も。近いうちに参加できたらいいな。
- 定年後の4人の手帳を興味深く読みました。勉強・ボランティア・公共施設利用など、それぞれのライフスタイルが見て取れます。中でも健康に気遣われているのがとても良いと思います。私も参考にしたい自分の手帳を作りたいと思います。
- 「徒然草津」の「認知症」より「失念症」の提案には思わず拍手の心境です。
- 「より道こ道」を毎号楽しく読んでいます。今号の「梅川忌」を訪ねてみたいです。知ることの楽しさ、楽しみの幅も広がります。約10年前に鑑賞した藤十郎の歌舞伎「封印切り」を思い出します。

「コミュニティくさつ」は、 みんなでつくる まちづくり情報誌です!

市民編集ボランティア

「コミュニティくさつ」は市民の皆さんと共に作成発行しています。本誌の企画、取材、寄稿、配布などを一緒にしてもらえる市民編集ボランティアを募集しています。写真やイラストが得意な方も大歓迎。

- 編集会議(3か月に1回)で意見を出してくれる人
- 取材同行や寄稿をしてくれる人
- 写真やイラストを提供してくれる人
- 自身のサークルや団体メンバーに本誌を配布してくれる人



● **申込み・問合せ** ●
(公財)草津市コミュニティ事業団
コミュニティくさつ編集部(まちづくり振興課内)

くさつ市障がい児者交流のつどい

見てよし・参加よし・笑顔がそろう **楽しいポッチャ!!**

2月9日(日) 13:30~15:30 草津YMITアリーナ
(野村3-3-27)

ポッチャは運動能力に障がいがある競技者向けに考案されたスポーツです。パラリンピックの公式種目にもなっているポッチャを市内の障がい児者の皆さんと一緒に交流しながら、体験してみませんか。

- 参加費** 無料 当日参加OK
- 持ち物** 上靴(体育館シューズ)
- 主催** くさつ市障がい児者交流のつどい実行委員会
- 問合せ** 草津市福祉事務所(市障害福祉課) ☎561-2363



ポッチャ

赤・青それぞれ6球ずつのボールを、投げたり転がしたり、他のボールに当てたりして、目標となる白いボールにいかに近づけるかを競うスポーツです。

